

令和3年度九州医学技術専門学校自己評価（臨床検査科）（専修学校・各種学校用）

		評価	
		前期	年度末
学校教育基本方針（教育理念）	社会生活に必要な知的で豊かな教養を持ち、専門分野において高度の知識や技術を身につけた臨床検査技師を育成することを目的とする。	B	B
学校教育目標	社会のニーズにこたえられる人材を育成する。医療現場において他の職員と共に働くことのできる協調性と倫理観を身につけ、豊かな教養を持ち、高度の専門知識と技術を持った臨床検査技師を育成する。	B	B
重点努力目標	① 日常から医療人としての自覚を持ち、礼儀正しい人材育成に努める。 ② 実習と講義の連携を図ることで学習に組みやすい環境をつくる。 ③ 臨床検査技師国家試験合格率90%以上にし、全員就職を目指す。	B	C

成果と課題

過去最低の卒業者数となってしまった。
就職も国家試験合格後に連絡が取れない卒業生があり、「全員就職」には至っていない。

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
1. 教育課程・学習指導						
（1） 科目編成における内容や工夫	基礎科目や専門基礎科目を効果的に取り入れ、「基礎力」を育成する。	専門教科とその他の教科は、学年ごとにバランスよく配分し、「基礎力」の育成に向けた科目間の連携に努める。	時間割の作成時に、各科目担当者の意見を反映する。	A	A	
			導入段階として、高等学校レベルの「生物、化学」問題集を課題として与え、取り組みやすくする。	A	/	
		自主的な学習ができるように、科目間の進捗を調整するよう努める。	講義報告書を記入することにより、シラバスにそった講義進行であるかを確認する。	A	A	
		「基礎力」を養う科目(生理学、生化学、解剖学など)を配し、特定の「基礎力」を高めるように努める。	国家試験を意識し、段階的に習熟度をみるために、過去の国家試験問題を小テスト形式で実施する。	A	A	2年：メテイツクメディア（国家試験）問題集配布 1年：臨床検査総論講義で練習問題取り組み
	臨床検査技師として、即戦力となるような教育カリキュラムを編成する。	専門教科では、校内の実習・演習系の科目をなるべく多く配し、就職先となる病院等の現場に類似した状況で学習できるように努める。	1学年時より、実習を多く取り入れ、実践的な力を養う。	A	A	
			他学年とペアを組ませ、器具の扱い方、実習への取り組み方などを指導しあうことにより、意欲的に学習できるようにする。	A	A	2年→1年：実施済
		就職先となる病院等での臨地実習を行う科目を配し、実際の仕事が経験できるように努める。	3年次で臨地実習に行く前に、事前の心構え、患者接遇等、基礎的な知識の確認を行い、スムーズに取り組めるようにする。	A	/	
		就職先の病院等を対象に卒業生の働きぶり等について調査を行い、学科の教育内容や達成目標の妥当性、あるいは重視する人材ニーズ等を分析し、その結果をカリキュラムの編成、科目の教育内容に反映するように努める。	就職先の病院等と連絡を取り、卒業生の働きぶりなどについて、話を聞く。（聞き取り調査）	B	B	
			聞き取り調査の結果を分析し、在校生の指導に活かす。	B	B	
		聞き取り調査の結果を分析し、カリキュラムの編成、科目の教育内容に反映する。	/	B		

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題	
				前 期	年 度 末		
(2) 教科指導における内容や工夫	指導方法を工夫する。	各授業で繰り返し学習を行い、病院等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、生徒自らが“気づく”ように努める。	各教科にて、授業の中でポイントを明確にし、質問、発問を工夫する。	A	A		
		授業のなかにグループ学習の手法を取り入れ、病院等の現場を想定した課題について、協同して取り組ませ、その結果をプレゼンテーションさせるように努める。	グループ実習により、協同して取り組ませる。	A	A		
		しばしば授業の最後に課題を提示し、決められた期間内に提出させることで、約束を守ることを意識させるように努める。	グループ課題研究（病態解析学）に取り組ませ、パワーポイントを使った発表を行わせる。		A		
		就職先となる病院等で豊富な実務経験を積んだ教員が、本人の貴重な経験を教材として活用し、より実践的な「基礎力」が育成できるように努める。	各教科の提出物の期日を厳守させる。	A	A		
	現場経験者等の人材を活用し、実践的な「基礎力」を育成する。	大学進学を含め、多くの現場で活躍している人の講話や授業を行い、仕事に必要な「基礎力」仕事の達成感や厳しさについて自覚できるようになる。	実務経験の豊富な人材に、非常勤講師として指導に当たってもらう。	A	A		
		卒業生の講話を実施する。	大学教授などの特別講話を実施する。（12月）			コロナ感染症もあり、未実施	
	シラバスを作成し、生徒に計画的な学習をさせる。	シラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布することにより、計画的な学習指導につなげる。	前期のシラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布する。	A			
			後期のシラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布する。		A		
	2. 生活指導						
	(1) 生活指導	全教職員で、挨拶、礼儀の指導を行う。	挨拶や礼儀作法などの指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	挨拶の慣行を図る。	B		
授業開始、終了時の挨拶を徹底する。				A			
職員室の入退室時の正しい動作を指導する。				A			
医療人としてふさわしい身なりや態度を身につけさせる。			病院見学など、TPOにあわせた服装のチェックを行う。			2年：公衆衛生実習（保健所）→後期	
			欠席、遅刻について厳しく指導を行う。	欠席科目については、レポートを提出させ、講義内容の把握を行わせる。	A		
			遅刻、欠席の連絡を、担任に必ず行うように指導する。	必要に応じて本人との面談、または保護者との連絡を取る。	A		
(2) 相談	問題行動の予防に努める。	教職員全員で、悩みを抱える生徒の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動を未然に防止する。	学生の変化に気づいたら声をかける。	A			
			朝礼などで、生徒の変化などを伝え合い、共通理解を図り、生徒の対応を協議する。	A			

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
3. 進 路						
(1) キャリアサポート	早期に面談や適性検査等を実施して、学生の希望に即した適切な進路指導を目指す。	1年次前期終了までに、生徒個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	1年次前期終了までに生徒個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	A	A	
		学習のモチベーション、就職への動機づけなどを高めるため、入学後の早い段階から、就職適正に関する個別面談・指導を行う。	個人面談、3者面談を必要に応じて実施し、生徒の希望に沿った指導を行う。	A	A	
			病院見学を1年次6月に行い、現場で活躍する臨床検査技師の仕事内容を知り、職業への意欲を持たせる。	D	/	未実施
	具体的でわかりやすいアドバイスを行う。	就職指導においては、一般常識や専門分野の試験対策、また、就職活動の進め方、履歴書の書き方、マナーなど、1年次の段階から具体的に指導を行う。	一般常識対策として問題集の活用、確認テストを行なう。	A	A	
			履歴書の書き方、面接の方法など具体的に指導にあたる。	A	A	3年：実施済
			就職担当者をおき、常に相談・指導できるようにする。	A	A	
	就職担当者の資質を向上する。	キャリアサポート担当の教職員を、研修会等に参加させ、資質を向上させる。	労働局などの就職支援の研修会を利用する。	/	A	ヤングハローによるグループディスカッション・面接練習実施
家庭との連携や協力を深める。	家庭が役割を認識し、その機能を発揮してもらうため、保護者との連絡を密にするなど、連携、協力を深める。	遅刻、欠席の多い者には、保護者に連絡を取り、早期改善に努める。	A	A		
豊かな人間性を育む。	躰教育・挨拶・ボランティア活動などを通して、医療人として社会に貢献できる、豊かな人間性を育めるよう、学校独自のプログラムを実践する。	担当者を決め、月ごとの重点目標を掲げるようにする。	D	D	担当者不在	
(2) 職場開拓	生徒の就職の門戸を拡大する。	採用情報を確実に入手し、生徒の就職の門戸を拡大する。	情報を早急に開示し、学生が積極的に就職活動に取り組めるようにする。	A	A	
			卒業生の就職先を訪問し、採用情報を入手しやすくする努力をする。	C	C	コロナ感染症もあり、未実施
(3) 資格取得	臨床検査技師国家試験合格に向けて最大の努力をする。	1年次より、国家試験に対する意識付けを行い、日々の学習の中で最終目標である国家試験に向けて努力するようにする。	早い段階で、国家試験の出題形式を理解させ、問題に取り組ませる。	A	A	
			補習を行い、不得意科目を作らないようにする。	A	A	
			常に、各教科への質問が受け付けられるよう、非常勤講師への連絡も密にする。	A	A	
	就職に直結する資格取得に積極的にチャレンジする。	就職をするにあたり、より有利な各検定を積極的に受験させるようにする。	資格取得の重要性を伝え、各能力に応じて、取り組める資格にチャレンジさせる。	/	A	

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
(4) 就 職 率	就職率100%を維持する。	生徒の希望にそった就職率100%を目指す(大学進学も含む)	学生の希望就職先などを早期に調査し、スムーズに就職案内ができるようにする。	A	A	
			2年次に病院、施設見学を行わせ、より就職への意識付けを行う。	D	D	コロナ感染症もあり、未実施
4. 社会人基礎力						
(1) 前 に 踏 み 出 す 力	生徒の主体性を育成する。	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて、積極的に取り組む能力を育成する。	ボランティア活動への関心を高めさせる。	B	A	献血ボランティア
	周りに働きかける力を育成する。	周りの人に呼びかけ、目的に向かって人々を動かす能力を育成する。	校内美化に努め、教室、実習室の清掃活動に取り組ませる。	B	A	担当場所を決め大掃除を行った
(2) 考 え 抜 く 力	課題発見力を育成する。	現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する能力を育成する。	質問にすぐに答えるのではなく、生徒の考えを十分聴く。	A	A	
		課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する能力を育成する。		A	A	
		新しい価値を生み出す能力を育成する。	友人関係を広げるように指導する。	A	A	
(3) チ ー ム で 働 く 力	発信力を育成する。	自分の意見を相手に分かりやすく伝える能力を育成する。	生徒に十分な時間を与え話を聞く。 授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A A	A A	1年：倫理学 2年：就職指導
	傾聴力を育成する。	相手が話しやすい環境をつくり、相手の意見を丁寧に聞く能力を育成する。	生徒の目を見て説明し、生徒にも同じように指導する。	A	A	
	柔軟性を育成する。	意見の違いや立場の違いを理解する能力を育成する。	授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	1年：倫理学 2年：就職指導
	状況把握力を育成する。	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力を育成する。	丁寧な言葉遣い、その場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	A	A	
	規律性を身につけさせる。	社会のルールや人との約束を守る力を育成する。	医療人としての自覚をもち、服装、頭髪が華美にならないように指導する。 校則違反者には厳粛に対処する。	A A	A A	
	ストレスコントロール力を身につけさせる。	ストレス発散の方法を身につけたり、ストレスをポジティブにとらえて対応できる力を身につけさせる。	スポーツ大会等への参加を促し、運動の励行を指導する。	A	A	保健体育実習を実施した

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
5. 広報						
(1) 生徒募集	分かりやすい募集要項を作成、生徒募集を行う。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項（学校案内）を作成する。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項を作成する。	A	A	
			電話や来校されての問い合わせに対し、分かりやすい努める。	A	A	
		高等学校訪問を実施し、在校生の状況説明や学校のPRを行う。	5月より体験学習の案内、新入生の報告を行う。	A	A	
			ホームページを頻繁に更新し、学生の状況や学校の取り組みの紹介を行う。	体験学習の案内、試験日程を書き込む	A	A
		学生声を随時取り入れる。		A	A	
		高校生へ直接PRを行う	高校でのガイダンスに参加する。	A	A	
		メディアを使って本校の認知度を高める	広告、CMなどで本校を知ってもらう。	A	A	
6. 組織・運営						
(1) 経営方針	経営方針を明確にし、その実践を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	中長期の学校経営ビジョンを全教職員が認識する。	A	A	
			学校評価を8月と3月に実施する。	A	A	
(2) 学校評価	学校自己評価を実施し、その結果を発進する。	自己評価結果をホームページで発信する。 自己評価結果を九州医学技術専門学校のパフレットに掲載し、生徒やその保護者などに配布する。	自己評価結果をホームページで発信する。	A	A	
			自己評価結果を年度末に保護者へ送付する。	/	D	
			自己評価結果を卒業時に配布する。	/	D	
(3) 授業評価	教員の指導力を高める。	生徒による教員の授業評価を実施し、教員の専門性・指導力の向上を目指す。	生徒による教員の授業評価アンケートを実施する。	D	D	未実施
			アンケート集計結果を職員会議に提案し、向上を図る。	/	D	

(4) 財務	会計監査を行い、安定した財務基盤を作る。	学生生活を送るうえ、不利益がないよう、健全な財務運営を行う。	予算、収支計画を行い、適切な会計監査を受ける。	A	A	
			財務情報公開を行う。			
評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
7. 施設・設備						
(1) 施設設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検を年2回以上行い、環境整備を図る。	毎月電気保安協会の点検を受ける。	A	A	
			机・椅子などの備品を点検し、不良品は取り替える。	A	A	
		日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	避難経路の確認を行う。	B	B	
		省エネ運動を推進し、水道・電気使用量を前年比5%減に努める。	電気器具、器材のスイッチの入れ換えをこまめにする。	A	A	
			学生へも教室の電気などの消し忘れがないよう呼びかける。	A	A	
(2) 情報設備	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	パソコンの講習会などに積極的に参加する。	A	A	
		パソコン上の生徒情報等の管理徹底を図る。	学生の個人情報の取り扱いには、細心の注意を払う。	A	A	
			自宅のパソコンで業務を行わない。	A	A	
			ウイルス防止のプログラムの最新版を使用する。	A	A	
			インターネットのアクセスは、業務以外のものはしない。	B	B	業務以外のアクセスがあった

令和3度九州医学技術専門学校自己評価（医療秘書科）（専修学校・各種学校用）

		評価	
		前期	年度末
学校教育基本方針（教育理念）	社会生活に必要な知的で豊かな教養を持ち、医療界に貢献できる医療秘書を育成することを目的とする。	A	A
学校教育目標	社会のニーズにこたえられる人材を育成する。医療現場において他の職員と共に働くことのできる協調性と倫理観を身につけ、豊かな教養を持ち、医療界に貢献できる医療秘書を育成する。	A	A
重点努力目標	① 日常から医療人としての自覚を持ち、礼儀正しい人材育成に努める。 ② 実習と講義の連携を図ることで学習に組みやすい環境をつくる。 ③ 各種検定試験にチャレンジし、多くの資格を取得させ、全員就職を目指す。	A	B

成果と課題

入学早々の退学者は出てしまった。他の学生は検定試験等で結果を残してくれた。仕事を早期離職した者や他職種に就いた者も居たため全員就職とはいかなかった。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
1. 教育課程・学習指導						
(1) 科目編成における内容や工夫	基礎科目や専門基礎科目を効果的に取り入れ、「基礎力」を育成する。	専門教科とその他の教科をバランスよく配分し、「基礎力」の育成に向けた科目間の連携に努める。	時間割の作成時に、各科目担当者の意見を反映する。	A	A	
		自主的な学習ができるように、科目間の進捗を調整するよう努める。	講義報告書を記入することにより、シラバスにそった講義進行であるかを確認する。	A	A	
		医療事務としての資格を取るために、必要な基礎知識を養う。	検定試験を意識し、段階的に習熟度をみるために、過去の検定試験問題を小テスト形式で実施する。	A	A	
	医療秘書として、即戦力となるような教育カリキュラムを編成する。	専門教科教科以外に、医療人として必要な知識を養う。	手話、介護、患者接遇などの授業を取り入れ、医療人としての即戦力になれるようにする。	A	A	
			コンピュータの授業を取り入れ、電子カルテなどに抵抗なく取組めるようにする。	A	A	
		就職先となる病院等での実習を行い、実際の仕事が経験できるように努める。	実習に行く前に、事前の心構え、患者接遇等、基礎的な知識の確認を行い、スムーズに取り組めるようにする。	A	A	実習前オリエンテーション&実習
	就職先の病院等を対象に卒業生の働きぶり等について調査を行い、学科の教育内容や達成目標の妥当性、あるいは重視する人材ニーズ等を分析し、その結果をカリキュラムの編成、科目の教育内容に反映するように努める。	就職先の病院等を訪問し、卒業生の働きぶりなどについて、話を聞く。（聞き取り調査）	/	B		
		聞き取り調査の結果を分析し、在校生の指導に活かす。	/	B		
		聞き取り調査の結果を分析し、カリキュラムの編成、科目の教育内容に反映する。	/	B		

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
(2) 教科指導における内容や工夫	指導方法を工夫する。	各授業で繰り返し学習を行い、病院等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、学生自らが“気づく”ように努める。	各教科にて、授業の中でポイントを明確にし、質問、発問を工夫する。	A	A	
		授業のなかにグループ学習の手法を取り入れ、病院等の現場を想定した課題について、協同して取り組ませ、その結果をプレゼンテーションさせるように努める。	グループ実習により、協同して取り組ませる。	B	B	就職実務にてグループ学習し、プレゼンは個人実施
		しばしば授業の最後に課題を提示し、決められた期間内に提出させることで、約束を守ることを意識させるように努める。	各教科の提出物の期日を厳守させる。	A	A	
	現場経験者等の人材を活用し、実践的な「基礎力」を育成する。	就職先となる病院等で豊富な実務経験を積んだ教員が、本人の貴重な経験を教材として活用し、より実践的な「基礎力」が育成できるように努める。	実務経験の豊富な人材に、非常勤講師として指導に当たってもらう。	A	A	
		多くの現場で活躍している人の講話や授業を行い、仕事に必要となる「基礎力」仕事の達成感や厳しさについて自覚できるように努める。	卒業生の講話を実施する。	D	D	
	シラバスを作成し、学生に計画的な学習をさせる。	シラバス（授業計画）を作成し、学生に配布することにより、計画的な学習指導につなげる。	前期のシラバス（授業計画）を作成し、学生に配布する。	A	/	
			後期のシラバス（授業計画）を作成し、学生に配布する。			A
2. 生活指導						
(1) 生活指導	全教職員で、挨拶、礼儀の指導を行う。	挨拶や礼儀作法などの指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	挨拶の慣行を図る。	A	A	
			授業開始、終了時の挨拶を徹底する。	A	A	
			職員室の入退室時の正しい動作を指導する。	A	A	
	医療人としてふさわしい身なりや態度を身につけさせる。	欠席、遅刻について厳しく指導を行う。	病院見学など、TPOにあわせた服装のチェックを行う。	A	A	
			欠席科目については、レポートを提出させ、講義内容の把握を行わせる。	A	A	
			遅刻、欠席の連絡を、担任に必ず行うように指導する。	A	A	
		必要に応じて本人との面談、または保護者との連絡を取る。	A	A		
(2) 相談	問題行動の予防に努める。	教職員全員で、悩みを抱える学生の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動を未然に防止する。	学生の変化に気づいたら声をかける。	A	A	
			朝礼などで、学生の変化などを伝え合い、共通理解を図り、学生の対応を協議する。	A	A	

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
3. 進 路						
(1) キャリアサポート	早期に面談や適性検査等を実施して、学生の希望に即した適切な進路指導を目指す。	6月までに、学生個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	6月までに学生個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	A	A	
		学習のモチベーション、就職への動機づけなどを高めるため、入学後の早い段階から、就職適正に関する個別面談・指導を行う。	個人面談、3者面談を必要に応じて実施し、学生の希望に沿った指導を行う。	A	A	
	具体的でわかりやすいアドバイスを行う。	就職指導においては、一般常識対策や専門分野の試験対策、また、就職活動の進め方、履歴書の書き方、マナーなど、早期段階から具体的に指導を行う。	履歴書の書き方、面接の方法など具体的に指導にあたる。	A	A	
			就職担当者をおき、常に相談・指導できるようにする。	A	A	
	就職担当者の資質を向上する。	キャリアサポート担当の教職員を、研修会等に参加させ、資質を向上させる。	労働局などの就職支援の研修会を利用する。	/	A	
	家庭との連携や協力を深める。	家庭が役割を認識し、その機能を発揮してもらうため、保護者との連絡を密にするなど、連携、協力を深める。	遅刻、欠席の多い者には、保護者に連絡を取り、早期改善に努める。	A	A	
豊かな人間性を育む。	躰教育・挨拶・ボランティア活動などを通して、医療人として社会に貢献できる、豊かな人間性を育めるよう、学校独自のプログラムを実践する。	担当者を決め、月ごとの重点目標を掲げるようにする。	B	B	月ごとの目標とはいかなかった	
(2) 職場開拓	学生の就職の門戸を拡大する。	採用情報を確実に入手し、学生の就職の門戸を拡大する。	情報を早急に開示し、学生が積極的に就職活動に取り組めるようにする。	/	A	
			卒業生の就職先を巡回し、採用情報を入手しやすくする努力をする。	B	B	
(3) 資格取得	各種検定試験合格に向けて最大の努力をする。	早い時期より検定試験に対する意識付けを行い、日々の学習の中で最終目標である資格取得に向けて努力するようにする。	早い段階で、検定試験の内容を理解させ、問題に取り組ませる。	A	A	
			補習を行い、不得意科目を作らないようにする。	A	A	
			常に、各教科への質問が受け付けられるよう、非常勤講師への連絡も密にする。	A	A	
	就職に直結する資格取得に積極的にチャレンジする。	就職をするにあたり、より有利な各検定を積極的に受検させるようにする。	資格取得の重要性を伝え、各能力に応じて、取り組める資格にチャレンジさせる。	A	A	

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
(4) 就 職 率	就職率100%を維持する。	学生の希望にそった就職率100%を目指す	学生の希望就職先などを早期に調査し、スムーズに就職案内ができるようにする。	A	A	
			8月に病院実習を行わせ、より就職への意識付けを行う。	/	A	
4. 社会人基礎力						
(1) 前 に 踏 み 出 す 力	学生の主体性を育成する。	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて、積極的に取り組む能力を育成する。	ボランティア活動への関心を高めさせる。	A	A	献血ボランティア
	周りに働きかける力を育成する。	周りの人に呼びかけ、目的に向かって人々を動かす能力を育成する。	校内美化に努め、教室、実習室の清掃活動に取り組ませる。	A	A	
(2) 考 え 抜 く 力	課題発見力を育成する。	現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する能力を育成する。	質問にすぐに答えるのではなく、学生の考えを十分聴く。	A	A	
		課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する能力を育成する。		A	A	
		新しい価値を生み出す能力を育成する。	友人関係を広げるように指導する。	A	A	
(3) チ ー ム で 働 く 力	発信力を育成する。	自分の意見を相手に分かりやすく伝える能力を育成する。	学生に十分な時間を与え話を聞く。	A	A	
			授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	就職実務、患者接遇など
	傾聴力を育成する。	相手が話しやすい環境をつくり、相手の意見を丁寧に聞く能力を育成する。	学生の目を見て説明し、学生にも同じように指導する。	A	A	
	柔軟性を育成する。	意見の違いや立場の違いを理解する能力を育成する。	授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	
	状況把握力を育成する。	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力を育成する。	丁寧な言葉遣い、その場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	A	A	
	規律性を身につけさせる。	社会のルールや人との約束を守る能力を育成する。	医療人としての自覚をもち、服装、頭髪が華美にならないように指導する。	A	A	
校則違反者には厳粛に対処する。			A	A		

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
	ストレスコントロール力を身につけさせる。	ストレス発散の方法を身につけたり、ストレスをポジティブにとらえて対応できる力を身につけさせる。	スポーツ大会等への参加を促し、運動の励行を指導する。	B	B	
5. 広報						
(1) 学生募集	分かりやすい募集要項を作成、学生募集を行う。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項(学校案内)を作成する。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項を作成する。	A	A	
			電話や来校されての問い合わせに対し、分かりやすい努める。	A	A	
		高等学校訪問を実施し、在校生の状況説明や学校のPRを行う。	5月より体験学習の案内、新入生の報告を行う。	A	A	
		ホームページを頻繁に更新し、学生の状況や学校の取り組みの紹介を行う。	体験学習の案内、試験日程を書き込む	A	A	
			学生の声を随時取り入れる。	/	A	
		高校生へ直接PRを行う	高校でのガイダンスに参加する。	A	A	
		メディアを使って本校の認知度を高める	広告、CMなどで本校を知ってもらおう。	A	A	
6. 組織・運営						
針(1) 経営方針	経営方針を明確にし、その実践を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	中長期の学校経営ビジョンを全教職員が認識する。	B	B	
			学校評価を8月と3月に実施する。	A	A	
(2) 学校評価	学校自己評価を実施し、その結果を発進する。	自己評価結果をホームページで発信する。	自己評価結果をホームページで発信する。	A	A	
			自己評価結果を九州医学技術専門学校のパフレットに掲載し、学生やその保護者などに配布する。	/	D	未実施

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題	
				前 期	年 度 末		
(3) 授業評価	教員の指導力を高める。	学生による教員の授業評価を実施し、教員の専門性・指導力の向上を目指す。	学生による教員の授業評価アンケートを実施する。	D	D	未実施	
			アンケート集計結果を職員会議に提案し、向上を図る。	D	D	未実施	
(4) 財務	会計監査を行い、安定した財務基盤を作る。	学生生活を送るうえ、不利益がないよう、健全な財務運営を行う。	予算、収支計画を行い、適切な会計監査をうける。	/	A		
			財務情報公開を行なう。	/	A		
7. 施設・設備							
(1) 施設設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検を年2回以上行い、環境整備を図る。	毎月電気保安協会の点検を受ける。	A	A		
			机・椅子などの備品を点検し、不良品は取り替える。	A	A		
		日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	避難経路の確認を行う。	B	B		
			省エネ運動を推進し、水道・電気使用量を前年比5%減に努める。	電気器具、器材のスイッチの入れ換えをこまめにする。	A	A	
				学生へも教室の電気などの消し忘れがないよう呼びかける。	A	A	
(2) 情報設備	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	パソコンの講習会などに積極的に参加する。	A	A		
			学生の個人情報の取り扱いには、細心の注意を払う。	A	A		
		パソコン上の学生情報等の管理徹底を図る。	自宅のパソコンで業務を行わない。	A	A		
			ウイルス防止のプログラムの最新版を使用する。	A	A		
			インターネットのアクセスは、業務以外のものはしない。	B	B	業務以外のアクセスがあった	